

Dell Technologies APEX 従量課金制ソリューションの ビジネス価値



Susan G. Middleton
Research Vice President, Flexible Consumption
and Financing Strategies for IT Infrastructure, IDC



Matthew Marden
Research Vice President,
Business Value Strategy Practice, IDC



目次



見出しをクリックすると該当ページに直接移動します。

エグゼクティブサマリー	3
ビジネス価値のハイライト	3
概況	5
「XaaS (as a Service)」への移行	5
Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションの概要	6
Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションのビジネス価値	7
調査対象企業の市場特性	7
Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションの選択と使用	8
Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションのビジネス価値とベネフィットの数値化	11
ITインフラストラクチャのコスト削減	12
ITスタッフの効率化	14
アジリティと開発の強化	18
パフォーマンスとビジネスベネフィット	20
ROI分析	22
課題と機会	23
結論	24
補遺1: 調査方法	25
補遺2: ベネフィットの数値化	25
補遺3: 補足データ	27
IDCアナリストについて	30
スポンサーメッセージ	31

エグゼクティブサマリー

デジタルトランスフォーメーション (DX) は、企業、プロセス、テクノロジーに大きな変化をもたらし続けている。このような変化は、ビジネスの運用方法や価値の創出方法、そして従業員、顧客、ステークホルダーそれぞれの活動においても大きな変化をもたらしている。DXの目標は、複雑なIT環境を簡素化し、運用上のアジリティを向上させ、成長分野に優先的に予算を割り当てることである。しかし、ビジネスリーダーにたずねたところ、ITの複雑性、技術的負債、スキル不足、時代遅れの (サイロ化した) アーキテクチャに阻まれ、ビジネス成果の実現速度に満足していないと答えている。IDCの調査では、世界中のITリーダーの69%が、競争力の維持に必要なテクノロジーへの投資の増大について、非常に懸念しているとしている。つまり、ITリーダーは企業のレジリエンシーについて慎重ながらも楽観的な見方を維持しているが、そのレジリエンシーを維持するために必要なテクノロジーへの投資の負担が増え続けていることも認識している。

企業は以下のことを実現したいと考えている。

簡素化されたマルチクラウドエクスペリエンスの提供:

近年、IT企業はマルチクラウド戦略を試験的に導入したが、その結果はさまざまであった。投資対象は、コントロールプレーンと管理プレーンの統合、アプリケーション展開の柔軟性、データ配置の制御強化などであった。次のフェーズでは、ハイブリッドクラウドの運用の簡素化と自動化に重点を置く。

データモビリティのリスク軽減:

DXは、複数の拠点にまたがるデータ資産の保護、新たに導入された法規制に関するガバナンス要件の遵守、増大するサイバー攻撃の脅威から資産を保護する能力など、データロジスティクスに関するいくつかの課題をもたらした。

オンデマンドITの提供:

次世代のツールとサービス機能をITに搭載させると、ビジネスに、拡張性があり、安定した運用しやすいオンデマンドITサービスをもたらすことができる。

ビジネス価値の ハイライト

下の各項目をクリックすると
本文書内の該当箇所に移動
します。

- ↓ **35%**
3年間の運用コストの削減
- ↑ **194%**
3年間のROI
- ↓ **27%**
インフラストラクチャのコスト削減
- ↑ **50%**
ITスタッフ全体の効率化
- ↑ **60%**
新たなハイパーコンバインド/サーバー容量導入の迅速化
- ↑ **16%**
開発者の生産性向上
- ↓ **91%**
計画外ダウンタイムの削減
- ↑ **921万ドル**
企業当たりの年間収益の増加

このような状況を背景に、マルチクラウドの重要性が、ITトランスフォーメーション戦略やITモダナイゼーション戦略において重要な役割を果たすことになる。63.7%の企業は、このようなトランスフォーメーション戦略やモダナイゼーション戦略を実行するに当たり、インフラストラクチャ、データ、アプリケーションのニーズに対応するために、1つ以上のクラウドにおいてリソース、スキル、開発努力を投じている（IDCのユーザー調査「Future Enterprise Resiliency and Spending [FERS] Survey, Wave 5 (2022年6月発行)」に基づく）。マルチクラウドインフラストラクチャの活用は重要な導入モデルであり、今後数年間もそうであり続ける。また、企業は、ITチームが効果的にコストを管理しながら、テクノロジーへの投資から最大限の価値を引き出せるように、すべてのITインフラ運用モデルにおいて明確な戦略を構築することが不可欠である。

IDCは、APEX Flex on DemandやAPEX Data Center UtilityなどのDell Technologies APEX従量課金制ソリューションを使用している企業にインタビューを行い、サーバー/ハイパーコンバージド、ストレージ、データ保護容量に対する影響を評価した。調査参加企業は一貫して、Dell Technologies APEXを活用してビジネスをサポートするため、より費用対効果に優れ、効率的でアジャイルなITインフラストラクチャを構築したと報告している。

IDCは、これらの企業のエクスペリエンスを分析し、企業が以下に示すベネフィットによって、大きな価値を達成していることを実証している。IDCは、その価値は企業当たり年間498万ドルと算出している。

- **ITインフラストラクチャのコストを削減：**調査参加企業は、バッファ容量のオーバプロビジョニングを最小限に抑え、現在のビジネス要件に合わせてインフラストラクチャの能力を必要に応じて増減できるようにして、平均27%のインフラストラクチャコスト削減を実現
- **ITスタッフの作業時間の削減：**調査参加企業は、統合度の高いIT環境を構築し、最新のアップグレードされたインフラストラクチャソリューションの新たな機能を活用し、ITインフラストラクチャチームの効率を50%向上
- **開発チームの能力の向上：**アジリティと拡張性の強化によって、ユーザーや顧客にタイムリーで影響力のある新機能を提供可能。新しいコンピュートリソースの提供にかかる時間を平均の60%に短縮
- **より堅牢なインフラストラクチャ環境の提供：**インフラストラクチャ停止によるビジネス中断の減少を実現。生産性と収益の損失が低減し、影響力の大きい計画外停止も平均91%減少
- **取引収益の強化：**顧客の需要に、よりの確に対応し、より良い顧客エクスペリエンスを確保することで、企業当たり年間平均収益が921万ドル増加

概況

「XaaS (as a Service)」への移行

先行きが不透明な経済、予算の逼迫、アジリティ向上などに対処する必要がある企業によって、XaaSの需要が高まっている。複数のパブリッククラウド、分散するエッジロケーション、オンプレミスデータセンターにまたがる相互接続されたワークロードの急速な普及は、IT企業が、自身でIT環境を管理する従来のアプローチには戻れないことを意味している。

多くの企業がハイブリッドクラウドの運用戦略に目を向けているが、多くの場合、その成功は複雑なものになっている。IDCのユーザー調査「*Future Enterprise Resiliency and Spending Survey, Wave 10 (2022年11月)*」では、IT部門の意思決定者が、DXの労力と予算制約のバランスを取りながら、マルチクラウド環境で直面する継続的な課題に対する見解を提示している。本調査の主な所見の一つとして、65%の企業が、レジリエンスを向上させ、運用コストを削減するために、専用（オンプレミス）／共有（パブリック）クラウドインフラストラクチャの管理とセキュリティを簡素化、一元化、標準化する必要性を認識していることが挙げられる。さらに、ITリーダーは予算の逼迫に常に留意し、セキュアな環境での対応力の向上に注力している。

複雑なIT環境の管理、高価な最先端テクノロジーへの投資圧力、ITの人材／スキル不足といった非常に困難な課題に対処するため、IT企業はテクノロジープラットフォームをマネージドサービスとして提供するXaaSプロバイダーに注目している。

Figure 1 (次ページ) が示すように、IDCが2023年6月に実施した調査でも、回答企業の78%が、XaaS製品／サービスが今後の戦略の重要な部分を占めることに同意しているという点が明らかとなっている。

このようなXaaS製品／サービスへの関心を高めている主な市場動向を以下に示す。

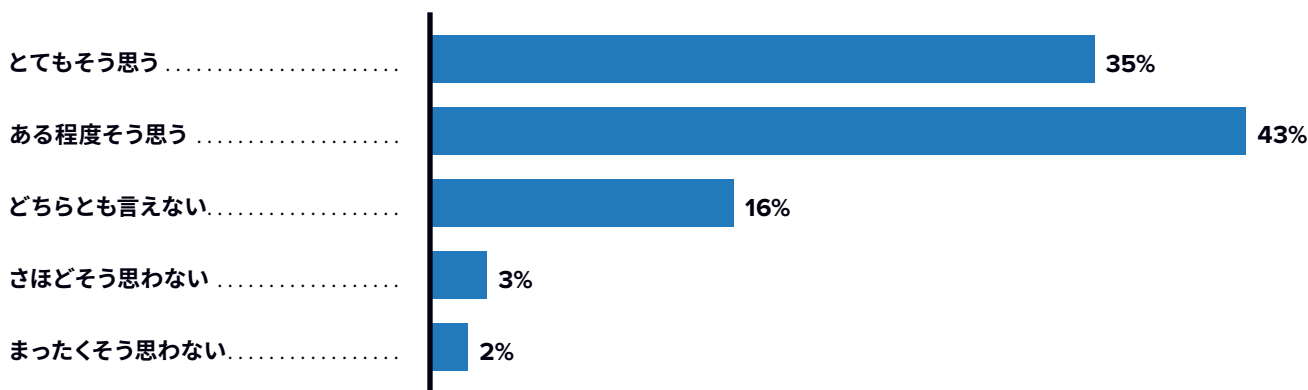
- as a Serviceソリューションの活用によるITワークロードの削減とスタッフの新たなスキル開発の実現
- モダナイゼーション、自動化、消費戦略の加速
- 業務部門チーム、開発チーム、データチームのコラボレーションとガバナンスの強化と拡張
- KPIとビジネス成果の整合

FIGURE 1

IT戦略におけるIT as a Serviceの重要性

次の記述にどの程度同意しますか：消費モデルやリモートサポートを含むDigital Infrastructure as a Serviceへの移行は、自社の今後の戦略の重要な要素である。

回答率 (%)



n = 876; Source: IDC's Future of Digital Infrastructure Worldwide Sentiment Survey, June 2023

XaaSは、マルチクラウドの運用戦略と組み合わせることで、企業が競争力を高めるために必要なアジリティ、効率性、レジリエンスを提供する。XaaSモデルを導入し、あらゆるIT資産の完全な所有から移行することで、あらゆる面で最高のものを提供できる。

Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションの概要

デル・テクノロジーズのAPEX従量課金制ソリューションは、企業が必要とする容量を柔軟に得られるようにし、予算要件内での運用を可能にする。企業は、現代の多様なエコシステムに必要な柔軟性とセキュリティを備え、複雑化するIT環境を管理できる簡素化されたアプローチを求めている。企業は、デル・テクノロジーズと連携することによって、定期的なアップグレード、長年に渡る調達サイクル、機器のオーバープロビジョニング、計画外停止といった課題を抱えることなく、必要なITインフラストラクチャポートフォリオを構築できる。

Dell APEX製品／サービスに組み込まれたモニタリングサービスによって、ITチームはITインフラストラクチャの管理ではなく、ビジネス成果に注力できる。

- **Dell Technologies APEX Flex on Demand**は、基本容量とバッファ容量の両方を提供しており、必要な容量に応じて変更できる。アセットリカバリー、導入、サポートなどのライフサイクルサービスは、一つの契約ですべて利用できる。
- **Dell Technologies APEX Data Center Utility**では、コストと使用量を一致させ、ITインフラストラクチャのコストを予算内に抑える柔軟性と透明性を顧客に提供している。このようにカスタマイズされたアプローチでは、デルの幅広い製品ポートフォリオとライフサイクルサービスを活用して、顧客のデータセンター環境のサポートと管理を行う。企業には、増大する容量要件への対応に必要な柔軟性が、1枚の請求書ですべて提供される。

Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションのビジネス価値

調査対象企業の市場特性

IDCの調査では、Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションの利用が企業に与える影響に重点を置いた。IDCは、Dell Technologies APEXの利用がITコスト、ITスタッフの活動、開発、ビジネスアジリティに加えてビジネス成果に与える影響について詳しい知識を持つIT意思決定者に詳細なインタビューを実施した。

Table 1 (次ページ) に、調査参加企業の企業特性の概要を示す。このように、調査参加企業は、平均従業員数2万7,800人、年間売上高42億9,000万ドル (中央値はそれぞれ従業員数6,200人、売上高18億5,000万ドル) のエンタープライズレベルの企業であった。インタビューを受けたDell Technologies APEXの顧客は、米国 (5社)、オーストラリア、インド、英国など、複数の地域別市場に本社を置いており、小売 (3社)、工学、政府、医療、保険、製造など、多くの業種の視点から経験を語ってくれた。

TABLE 1

インタビュー対象企業の市場特性

	平均	中央値
従業員数	27,800	6,200
ITスタッフ数	294	105
ビジネスアプリケーション数	243	135
年間売上高	42億9,000万ドル	18億5,000万ドル
国	米国 (5)、オーストラリア、インド、英国	
業種	小売 (3)、工学、政府、医療、保険、製造	

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションの 選択と使用

このインタビューでは、サーバー/ハイパーコンバージド、ストレージ、データ保護容量にDell Technologies APEX従量課金制ソリューションを使用している調査参加企業を対象としている。IDCは8社にインタビューを実施し、そのうちの7社はサーバー/ハイパーコンバージド、5社はストレージ、4社はデータ保護容量にDell Technologies APEXを使用していた。

調査参加企業は、Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションの利用を決定する際に共通する検討事項について述べている。最も多かったのは、費用対効果の高い方法でビジネスニーズを満たすためには、インフラストラクチャを購入しオンプレミスで運用するのが一般的であった当時のIT環境では、もはや頼りにならないという結論に達したことである。変化するビジネス要件に応じてITインフラストラクチャをプロビジョニングすることに苦勞しており、先行投資で容量を購入しすぎて無駄にするのか、十分な容量が手元になくてビジネスの需要パターンの変化に対応できなくなるかというジレンマに直面していると述べている。これらの要因から、新しいアプローチ、特に容量プロビジョニングのより柔軟なモデルに基づくアプローチを検討するようになり、Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションの採用を決定した。

以下はインタビューを受けたデル・テクノロジーズの顧客による、決め手となった判断基準の回答である。これには、コストとビジネスイネーブルメントに関する分析と、デル・テクノロジーズとの関係を通じて得られるであろうサポートへの信頼の両方が含まれていた。

ビジネス需要に対応するコスト効率の高い方法、サーバー／ハイパーコンバード：

「当社では、予算上の理由から話し合いを始めました。＜中略＞新しい機器を購入する際に、必要な容量を計画することは非常に困難でした。そこで、デルのチームと協力し、この従量課金制という選択肢を検討しました。＜中略＞当社にとってそれこそが真の変革でした」

ビジネスの期日を厳守できる調達モデルの柔軟性、サーバー／ハイパーコンバード：

「Dell Technologies APEXを採用したのは、ハイパフォーマンスワークロードを実行する際の柔軟性を向上させるためです。当社ではいつも機器を購入していたので、財務部門にとっては大きな買い物でした。現在はAPEXが機能していることを誰もが理解しています。＜中略＞納期を守るために必要な機能がAPEXに用意されているので、あらゆるチームのストレスが軽減されています」

容量増加要件を満たす適切なソリューション、ストレージ：

「結局のところ、デルの消費ベースの契約が、当社には圧倒的に有益でした。従量課金制の契約を結んでいなければ、当社が達成してきたような速度での増加は達成できませんでした」

デルとの関係とサポートの質、サーバー／ハイパーコンバード、ストレージ：

「[競合ソリューション]とDell Technologies APEXの間で明らかに迷っていましたが、地元のデルのチームが提供してくれるテクニカルサポートの方がより安心でした。＜中略＞ですから、デルと地元のチームによって強化されたサポートが、デル側に有利に働いたのです」

Table 2 (次ページ) は、調査参加企業のDell Technologies APEX従量課金制環境に関する情報である。このように、Dell Technologies APEXはIT環境の中核をなしており、6か所のオンプレミスデータセンターと2つのパブリッククラウドで、平均するとIT総容量の約3分の1を占めている。また、平均で320の事業拠点と総収益の85%に密接に関係するアプリケーション／サービスのサポートにDell Technologies APEXが使用されていることから利用規模の大きさがうかがえる。

前述の通り、IDCはハイパーコンバード／サーバー、ストレージ、データ保護容量にDell Technologies APEXを使用している企業に話を聞いた。

調査参加企業のAPEX環境を以下に示す。

ハイパーコンバード／サーバー：

ハイパーコンバード／サーバー容量にAPEXを使用している7社のインタビュー対象企業は、平均で66台のサーバーと1,629台の仮想マシンやクラウド仮想マシンを所有し、平均で180のビジネスアプリケーションを実行していた。

ストレージ:

ストレージ容量にAPEXを使用している5社のインタビュー対象企業では、平均で7台のストレージアレイに396TBのストレージ容量を用意していた。

データ保護:

データ保護容量にAPEXを使用している4社のインタビュー対象企業は、平均で4台のデータ保護マシンを所有し、平均で339TBのデータ容量をサポートしている。

TABLE 2**インタビュー対象企業のDell Technologies APEXの利用状況**

	平均	中央値
容量に柔軟性を持たせているシステムに占めるDell Technologies APEXの割合	66%	73%
IT環境／容量全体に占めるDell Technologies APEXの割合	33%	23%
オンプレミスのデータセンター数	6	2
パブリッククラウド数	2	2
コロケーションプロバイダー数	1	0
事業拠点数	320	24
サポートした収益の占める割当	85%	100%
ハイパーコンバージド／サーバー		
サーバー数	66	30
VM／クラウドVM数	1,629	975
テラバイト数	273	110
ビジネスアプリケーション数	180	95
年間収益	42億9,000万ドル	18億5,000万ドル
ストレージ		
ストレージアレイ数	7	7
テラバイト数	396	271
データ保護		
データ保護用のマシン数	4	4
テラバイト数	339	62

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションの ビジネス価値とベネフィットの数値化

IDCの調査では、企業における運用コストとビジネスイネーブルメントの両方の観点から、Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションの利用価値を実証している。調査参加企業は、APEXによってより費用対効果の高いIT環境を構築し、従業員や顧客により良いサービスを提供できることが、業務の効率化やビジネスの利益につながっていると報告している。

調査参加企業は、ビジネスをサポートするITリソースのプロビジョニング方法を変更すること、運用成果向上の間に密接な関係があると詳述している。

顧客へのコミットメントの達成、サーバー/ハイパーコンバージド：

「Dell Technologies APEXの使用によって得られる最大のベネフィットは、約束の期日を守れることです。 <中略>APEX従量課金制を利用することで、追加に備えたコンピューティング容量を前もって待機させておけます。この予備容量を解放して、より多くのジョブを実行できます」

顧客の需要に応えるDXの基盤、サーバー/ハイパーコンバージド、ストレージ：

「Dell Technologies APEXの最も重要なベネフィットは、この驚くべきDXジャーニーに着手できることです。このジャーニーによって当社は、以前はアクセスできなかったものにアクセスできるようになり、最終的には、業界で現在市場から求められている顧客エクスペリエンスを提供できるようになります」

実際のビジネス要件への対応のしやすさ、ストレージ：

「Dell Technologies APEXを使用すると、拡大したらその分の料金を支払いますが、縮小すれば料金は少なく済みます。当社のビジネスユニットの拡大の根幹をなすものであり、他の方法では実現できませんでした」

IDCの分析では、ITコストやITスタッフが得られるベネフィットだけでなく、リスク低下やビジネスイネーブルメントのベネフィットなど、調査参加企業がDell Technologies APEXを使用することによる広範な価値を示している。

全体として、調査参加企業は、以下の分野で、IDCのROI (Return on Investment) モデルで考えられている年間平均498万ドル相当のベネフィットを得られるとIDCは見積もっている (次ページのFigure 2を参照)。

ITスタッフの生産性のベネフィット：

インタビュー対象企業は、ITアジリティの強化と、ITチームにとって負担となる日常的な管理とサポートが削減されたため、開発チームが有効化されたと述べている。このような生産性のベネフィットや時間の節約は年間平均173万ドル相当になるとIDCは見積もっている。

リスク低減 – ユーザーの生産性のベネフィット:

インタビュー対象企業は、ITインフラストラクチャをより堅牢にすることで計画外停止が減少するというベネフィットを得ている。その結果、ユーザーの生産性と純収益が向上し、それは年間平均151万ドルに相当するとIDCはみている。

ビジネスの生産性のベネフィット:

インタビュー対象企業は、顧客エクスペリエンスの向上を実現し、ビジネスの要求に、より迅速に対応することで、年間平均122万ドル相当の高い純収益を生み出している。

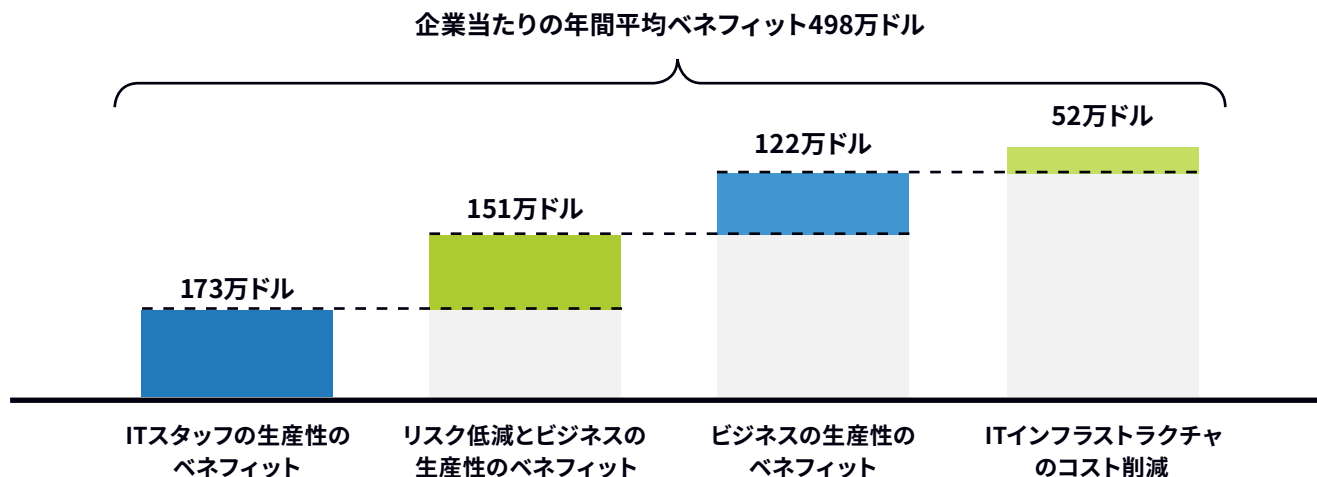
ITインフラストラクチャのコスト削減:

インタビュー対象企業は、バッファ容量を少なく抑えておき、ハイパーコンバージド/サーバー、ストレージ、データ保護インフラストラクチャへの設備投資を繰り返す必要性を回避しているに違いない。それによって年間平均52万ドルを節約できる。

FIGURE 2

企業当たりの年間平均ベネフィット

企業当たりのベネフィット (ドル)



n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

このグラフの詳細データについては補遺3の [Figure 2補足データ](#) を参照。

ITインフラストラクチャのコスト削減

調査参加企業は、ハイパーコンバージド/コンピュータ、ストレージ、データ保護容量のいずれにおいても、Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションを利用することが、より費用対効果の高いITインフラストラクチャの構築や維持の実現と関係があるとしている。

調査参加企業は、Dell Technologies APEXを利用することで、必要に応じて容量を増減できるため、費用対効果の高いインフラストラクチャの利用が促進されると一様に述べている。容量余剰の可能性への懸念から容量を最小限に抑える必要なしに、またはプロビジョニングが不十分で容量が不足するリスクにさらされることなく、APEXを利用して適切な容量を確保できることを強調している。

したがって、バッファ容量を少なく維持し、購入して運用するモデルによって設備投資が長期化する必要性を回避しなければならない。インタビュー対象企業は、Dell Technologies APEXによるインフラストラクチャのコスト削減の実現方法を説明してくれた。

バッファ容量への支出の削減、サーバー/ハイパーコンバージド、ストレージ:

「Dell Technologies APEXでは、非常に短時間で利用できるようにバッファをオンデマンドで提供しているため、バッファ容量への支出が減少しました。＜中略＞バッファ容量が10%近く減少しました」

設備投資からの脱却の実現、サーバー/ハイパーコンバージド、ストレージ、データ保護:

「Dell Technologies APEXでは、使用量に応じて料金を支払うため、設備投資の必要がありません。ビジネスで何か必要になったときは起動し、必要なくなったら停止するだけです」

予備用のストレージ容量プロビジョニングの必要性を削減、サーバー/ハイパーコンバージド、ストレージ、データ保護:

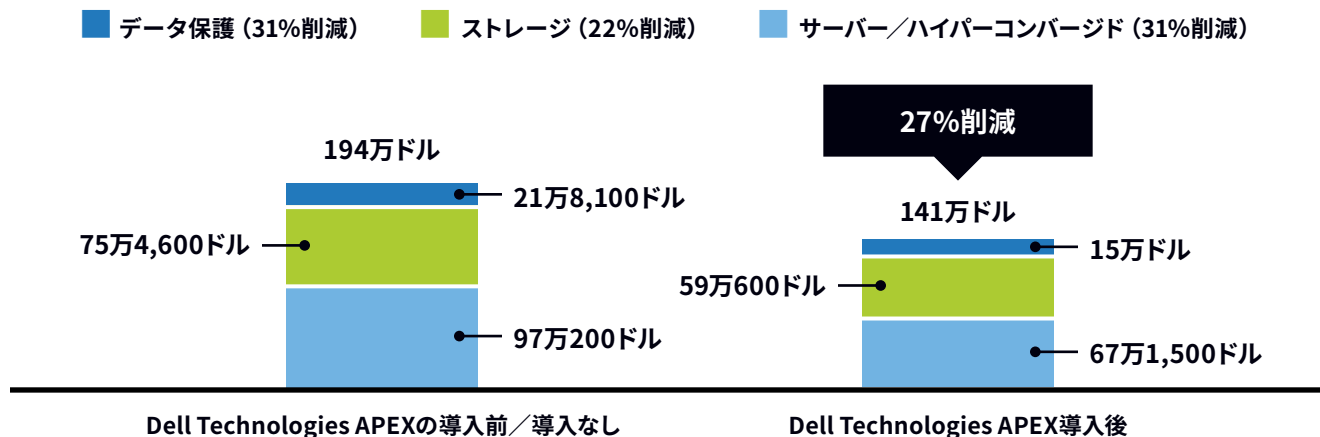
「Dell Technologies APEXはIT予算の約5%で、人件費も含まれています。CAPEXモデルを用いてこれをオンプレミスで実行した場合、IT予算の9~10%はかかるでしょう。＜中略＞APEXではストレージの利用が最適化されるため、ストレージを50%ほど増設する必要がありました」

全体として、調査参加企業は、Dell Technologies APEXの使用によって、ハイパーコンバージド/サーバー、ストレージ、データ保護容量への支出を平均で27%削減できたと報告している（次ページのFigure 3を参照）。コスト削減効果は、ハイパーコンバージド/サーバーとデータ保護で平均31%、ストレージで平均22%と、インフラストラクチャ群の間では比較的同程度であった。さらに、調査参加企業は、テクノロジーのアップグレードによって運用コストの効率化が進み、平均で14%の電力コスト削減、10%の設備コスト削減によるベネフィットを得ていると報告している。また、ある調査参加企業は「Dell Technologies APEXは、電力効率がはるかに優れています。そのため、使用している電力量を評価し、必要な容量だけ使用できます。電力や冷却のコスト削減になります。このような電力や設備のコスト削減によって、3年間で平均25%のインフラストラクチャ全体のコスト削減を実現しました」と説明している。

FIGURE 3

インフラストラクチャの年間コスト

(企業当たりの年間コスト)



n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

このグラフの詳細データについては補遺3の [Figure 3補足データ](#) を参照。

ITスタッフの効率化

調査参加企業は、Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションによって、ITインフラストラクチャ環境をモダナイズし、適切な規模にしたところ、コンピュート、ストレージ、データ保護環境の管理とサポートを担当するチームで大幅な効率化がもたらされたと報告している。

デル・テクノロジーズの顧客へのインタビューでは、このような効率化の要因として、日常的なトラブルシューティングの削減によるパフォーマンスの向上、設定や導入の負担を軽減する自動化を含む機能、より合理的なIT環境の維持の実現などが挙げられている。

目先の問題ばかりに対応することを減らして効率化につなげる、サーバー/ハイパーコンバージド:

「Dell Technologies APEXを導入したことで、おそらく目先の問題ばかりに対応することが減っただけだと思いますが、ITインフラストラクチャチームの生産性が以前よりも70%ほど向上しました。〈中略〉今では、インフラストラクチャチームに送られてくるチケットの量が劇的に減少しました」

管理と配布を効率化する単一ペイン、サーバー/ハイパーコンバージド、ストレージ:

「Dell Technologies APEXを導入し、1つのダッシュボードで使用できるため、スピンオフの迅速なプロビジョニングが可能となり、納期の短縮や市場投入の迅速化などのベネフィットが実現しました。〈中略〉一言で言えば、インフラストラクチャの最下層から始めることで、多くの効率化を実現したのです」

強力なビルトイン型セキュリティ機能からベネフィットを得るITインフラストラクチャチーム、サーバー/ハイパーコンバージド、ストレージ、データ保護:

「Dell Technologies APEXには多くのセキュリティ機能が組み込まれているため、ITインフラストラクチャチームは時間を節約できます。セキュリティタスク全体で、月に約8時間節約できます。〈中略〉1時間半かかっていたセキュリティ脅威への対応が、1時間以内でできるようになりました」

Table 3に示す通り、調査参加企業はDell Technologies APEXを使用することで、ワークロードの管理/実行に必要なスタッフの作業時間の削減というベネフィットを得ている。ハイパーコンバージド/サーバーチームでは51%、ストレージチームでは46%、データ保護チームでは56%など、ITインフラストラクチャチームでは平均50%の効率化が報告されている。

TABLE 3**ITインフラストラクチャチームへの影響**

	Dell Technologies APEXの導入前/導入なし	Dell Technologies APEX導入後	差	ベネフィット
ハイパーコンバージド/サーバー				
同じワークロードに必要なFTE換算 (Full-Time Equivalents: フルタイム当量) の値	10.1	5.0	5.1	51%
必要とされるFTE時間の換算値 (企業当たりの年間コスト)	101万ドル	50万1,600ドル	51万2,800ドル	51%

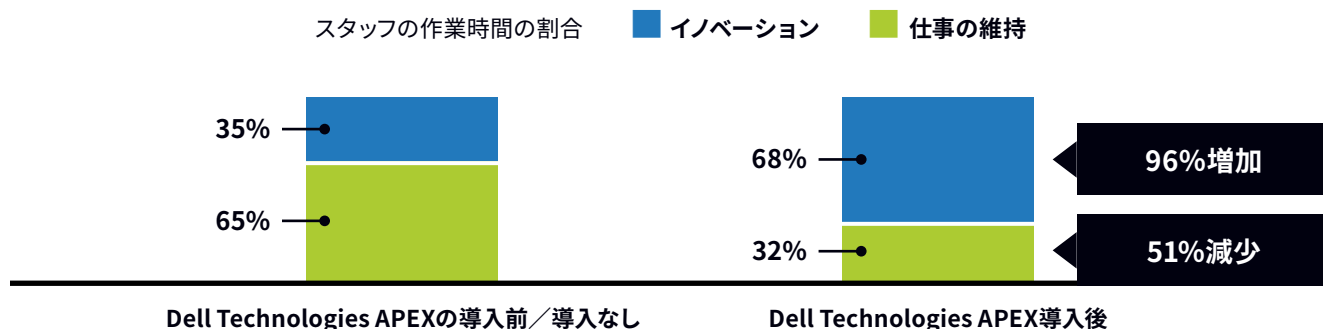
[次ページに続く >](#)

	Dell Technologies APEXの導入前/ 導入なし	Dell Technologies APEX導入後	差	ベネフィット
ストレージ				
同じワークロードに必要なFTE換算値	5.2	2.8	2.4	46%
必要とされるFTE時間の換算値 (企業当たりの年間コスト)	52万2,100ドル	28万2,800ドル	23万9,300ドル	46%
データ保護				
同じワークロードに必要なFTE換算値	1.7	0.8	0.9	56%
必要とされるFTE時間の換算値 (企業当たりの年間コスト)	16万8,800ドル	7万5,000ドル	9万3,800ドル	56%
FTE合計	17.1	8.6	8.5	50%

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

重要な点として、調査参加企業は、スタッフの貴重な作業時間を他のプロジェクトや取り組みに割り当て直すことができるため、このような効率化の数値は倍増すると指摘している。たとえば、ハイパーコンバインド、ストレージ、データ保護ソリューションを利用している顧客は「Dell Technologies APEXの導入によって、ITチームはサプライチェーンに関連した、よりビジネスクリティカルなプロジェクトに集中できるようになりました。以前なら、このようなプロジェクトはコンサルティンググループに依頼していたでしょう。自社で取り組めることで、コストの節約につながりました」と説明している。同様に、ハイパーコンバインドとストレージを利用しているある企業は「Dell Technologies APEXの導入によって、ITチームを再編成できました。ビジネス改革をより迅速に実行できるようになり、それが好影響をもたらしています」と述べている。Figure 4 (次ページ)に示すように、時間をかける注力分野が顕著に移行している。調査参加企業は、これらのチームが、仕事を維持するためだけに費やす時間が51%削減されたため、イノベーションやその他のプロジェクトに集中する時間がほぼ2倍(96%増加)になったと報告している。

FIGURE 4
ITイノベーションへの影響

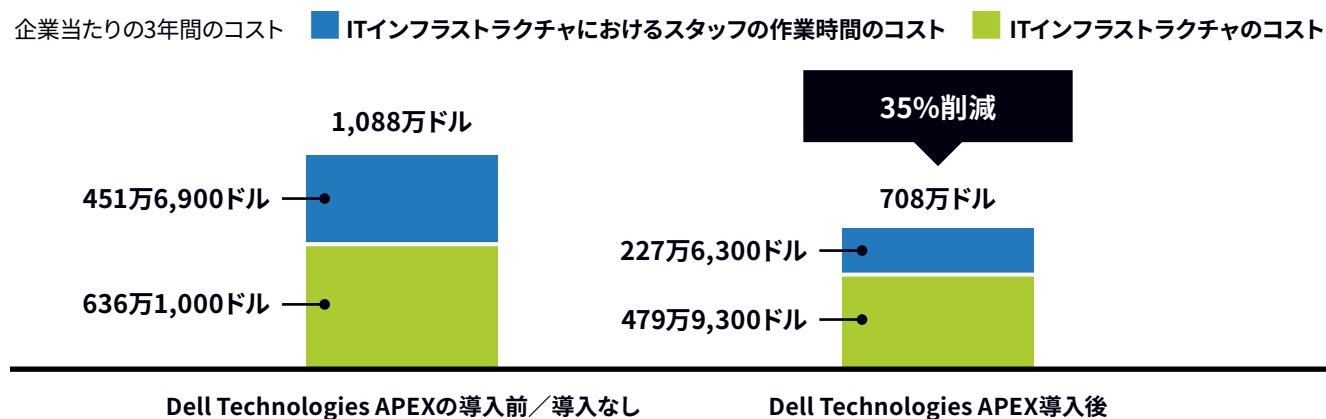


n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

このグラフの詳細データについては補遺3の [Figure 4補足データ](#) を参照。

ITインフラストラクチャとITスタッフの効率化が相まって、Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションの運用コスト面における魅力的な価値を創出している。Figure 5に示すように、調査参加企業は3年間で平均35%のコスト削減を実現し、その結果、企業全体で平均380万ドルのコスト削減を達成したとIDCは見積もっている。

FIGURE 5
企業当たりの3年間の運用コスト



n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

このグラフの詳細データについては補遺3の [Figure 5補足データ](#) を参照。

アジリティと開発の強化

調査参加企業は、Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションを利用する中核的な価値として、追加したコンピュート、ストレージ、データ保護容量への迅速なアクセスを一様に挙げている。

購入して運用するモデルでは、ビジネスや開発業務に必要なスピードでITリソースを提供することに課題があると認めており、APEXを使用することで、ビジネス要件の充足にはるかに迅速に対応できる高いアジリティと自信が備わったと報告している。

ユーザーへの提供の際のスピードの向上、ストレージ：

「以前は、効果的なスケールアップができませんでした。スケールアップのタイミングはそれぞれですが、Dell Technologies APEXを利用すれば、ユーザーは必要なものを翌日に入手できます。以前は、スケールアップの必要がある場合、当社では注文し、入手してからセットアップする必要がありました」

ビジネスニーズに対応した容易なスケールアップ、サーバー/ハイパーコンバージド、ストレージ、データ保護：

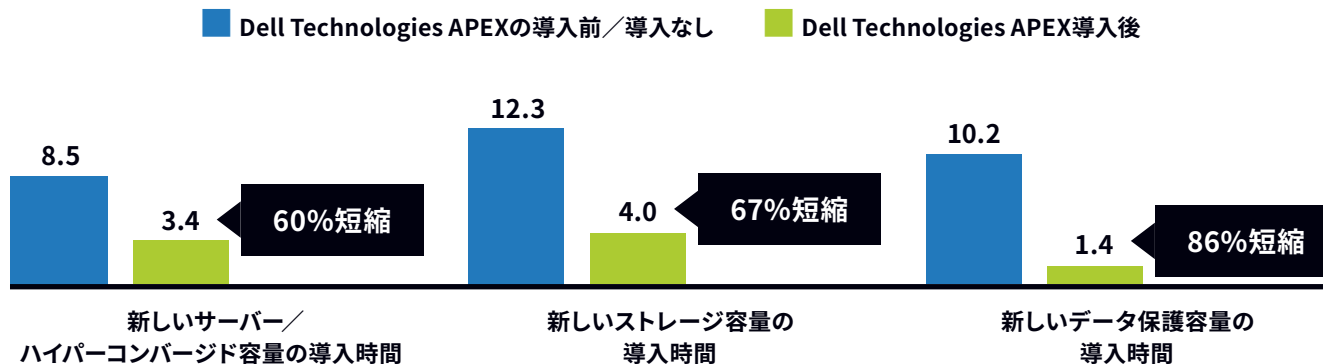
「Dell Technologies APEXの導入によって、機器の購入やプロビジョニングを待たずに、ビジネスの要求に応じてスケールアップが可能になりました」

容量の制約を憂慮せず利用の拡大が可能、サーバー/ハイパーコンバージド：

「確保すべき新しいワークロードが生じた場合、Dell Technologies APEXを利用することで、環境内のセットポイントや閾値を超える心配をすることなく、より簡単にワークロードを確保できます」

Figure 6 (次ページ) は、Dell Technologies APEXでITリソースを提供するスピードに関する重要な影響を示している。調査参加企業は、新しいサーバー/ハイパーコンバージド容量の導入にかかる時間を60%短縮、新しいストレージ容量では67%短縮でき、新しいデータ保護容量においては86%も短縮できたと報告している。Dell Technologies APEXの一般的な全体的影響についてたずねたところ、IT環境に新たにリソースを追加するために要する時間が60%短縮されたと答えている。

FIGURE 6
ITアジリティへの影響
(時間数)

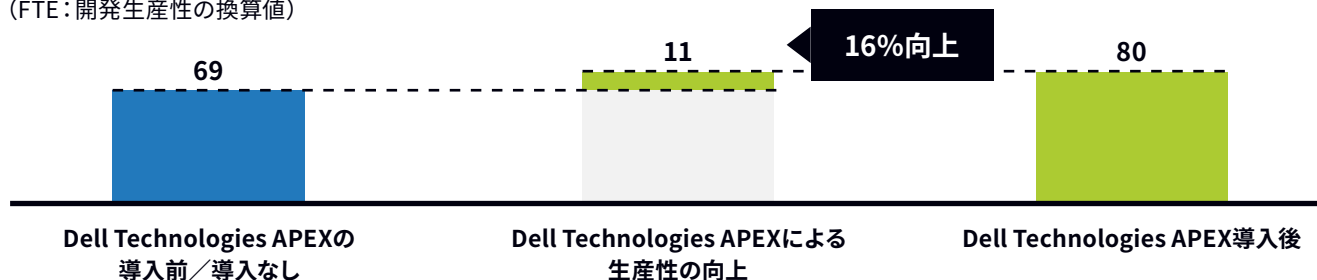


n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

このグラフの詳細データについては補遺3の [Figure 6補足データ](#) を参照。

ITインフラストラクチャのアジリティを高めることで得られる重要なベネフィットの一つは、開発チームがビジネスニーズを満たすために、より迅速かつ柔軟に動けるようになることである。調査対象企業は、開発ライフサイクル全体において、追加された容量をすぐに利用できることが、無駄な調整作業の削減につながると述べている。また、ハイパーコンバインドリソースを使用しているある企業は「Dell Technologies APEXを利用すれば、場合によってはオフラインで実行しなければならないテストや大規模なOSのアップグレードのような、他の開発目的にもノードを使用できます。これらのノードの一つを数日間、または数週間使用して作業でき、パフォーマンスの観点から事前に使用量を把握できます」と述べている。Dell Technologies APEXの顧客へのインタビューにおいて、これはより効率的な開発の取り組みにつながっており、IDCは、開発者の生産性向上を16%と定量的に推定しているが、この推定は、開発量の13%増加、開発ライフサイクルの16%短縮などの調査結果に基づいている (Figure 7を参照)。

FIGURE 7
開発チームの生産性への影響
(FTE: 開発生産性の換算値)



n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

このグラフの詳細データについては補遺3の [Figure 7補足データ](#) を参照。

パフォーマンスとビジネスベネフィット

インタビュー対象のDell Technologies APEXの顧客も、アプリケーションやシステムのパフォーマンス向上は、ITインフラストラクチャのモダナイゼーションと統合のおかげであると答えている。インフラストラクチャの容量を容易に増やせるため、ボトルネックが抑制され、パフォーマンス問題のリスクが低下したと説明している。ハイパーコンバージドとストレージリソースを使用しているある顧客は、「業務ピーク時の管理が難しくなりつつありましたが、Dell Technologies APEXが提供するシングルコンソールに移行してからは、そのようなピーク時にも多くのことができるようになりました。パブリッククラウドプロバイダーが増減可能な容量を提供してはいましたが、うまく活用できませんでした。当社はAPEXからのベネフィットとして、3~5%の追加収益を得ています」と述べている。

調査参加企業にとって、Dell Technologies APEXによって達成したパフォーマンス向上における重要な評価基準の一つは、計画外停止の影響の抑制である。Table 4に示すように、計画外停止が67%減少し、停止による生産性への影響が91%低下したと報告されている。さらに、インタビューに応じた企業は、Dell Technologies APEXが停止によるビジネスへの直接的な影響を抑え、平均で67%、年間約330万ドルの収益の損失削減に役立っていると述べている。

TABLE 4

計画外停止への影響

	Dell Technologies APEXの導入前／導入なし	Dell Technologies APEX導入後	差	ベネフィット
年間の計画外停止の回数	6.8	2.3	4.6	67%
平均復旧時間（時間）	4.4	1.1	3.3	74%
ユーザー当たりの失われた生産時間数（年当たり）	3.9	0.3	3.6	91%
企業当たりの年間生産性損失（FTE換算）	19.0	1.6	17.3	91%
企業当たりの年間生産時間の損失額	133万ドル	11万3,700ドル	121万ドル	91%
企業当たりの年間収益損失額	492万ドル	162万ドル	330万ドル	67%

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

重要なのは、費用対効率が高く、効率的でアジャイルなITインフラストラクチャを導入することで、新規ビジネスの獲得や既存の顧客へのサービス向上といった形のビジネス上の利益につながったことを、インタビューを受けた顧客が明確に述べていることである。インタビューを受けたほとんどの顧客にとって、ビジネス上の利益は、大幅に強化された拡張性（すなわち、顧客のニーズを満たすために、目的に合わせて対応する能力）によってもたらされたものであった。

Dell Technologies APEXの導入によって、調査参加企業は、以前は苦勞が多かったビジネスの完全サポートも、今では一貫して提供できるようになったと報告している。

リソースの可用性に由来するビジネスの遅れを回避、サーバー/ハイパーコンバージド：

「以前は、スケジュールに合わせて十分にスケーリングできなかったため、収益となるまでの時間がその分延長され、大幅な遅れが生じていました。ですから、APEXによって常にスケジュール通りに得られる価値は想像できるでしょう。〈中略〉企業にとって明らかなベネフィットがありました」

顧客のニーズを先取り可能、ストレージ：

「デルの提供するDCU (Data Center Utility) 契約による消費量に基づくモデルは、大規模な設備投資をせずに、オンデマンドで必要な容量を利用できるため非常に優れています。このような利用は、以前は不可能とされていました。DCUのおかげで、新規事業ユニットである当社も、顧客の需要に先行して十分な容量を確保できるようになりました」

Table 5は、スケーラビリティの向上がビジネス成果にどの程度影響するのかを示しており、調査参加企業は、Dell Technologies APEXの使用と共に、年間平均921万ドルの収益増加を報告している（IDCはDell Technologies APEXソリューションの貢献を、921万ドルの収益増加のうち、15%に当たる138万ドルと算定している）。

TABLE 5
ビジネスの生産性のベネフィット — 収益増加

収益への影響	企業当たり	100VM当たり
年間収益増合計	921万ドル	56万5,500ドル
想定営業利益率	15%	15%
年間の純収益増合計	138万ドル	8万4,800ドル

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

ROI分析

調査参加企業の数社は、ビジネス運用を実現する上でDell Technologies APEXが果たした重要な役割について詳しく説明している。

その数社は、APEXが自社のビジネスモデルや顧客へのサービス方法の基盤となっていることを力説している。

ビジネスへの大きな影響、ストレージ：

「Dell Technologies APEXを使用したことによって、顧客が書き込んだブロックの量に応じた支払いだけの負担で、市場価格で数百万ドル相当のストレージアレイを準備することができました。それがなかったら、当社が現在の成長レベルを達成することはできなかったでしょう。デルの頼もしい支援は、当社にとって重要です。顧客が必要とする消費量をDell Technologies APEXが提供してくれることで、当社はビジネスを成長できますので、デルとは素晴らしい関係を構築できました。デルは、当社のビジネスを理解し、個人経営の企業の独自性を理解してくれました」

コストとビジネス面でのベネフィット、サーバー／ハイパーコンバージド：

「Dell Technologies APEXは、結局のところ、誰にとってもメリットがありました。CAPEXの毎月の減価償却率は変わらないのに、毎月のOPEXから最終的に投入した金額よりも多くの金額を得られました。当社が目標としていたものに近く、最終的にはより多くの容量を手に入れられました。ですから、財務も、設計部門も、私たちも満足しました」

Table 6 (次ページ) は、調査参加企業がDell Technologies APEX従量課金制ソリューションを使用した際のIDCのROI分析である。IDCは、インフラストラクチャのコスト削減、ITチームの効率化、開発チームの生産性向上、ユーザーの生産性向上、純収益の増加において、3年間で1,179万ドル相当の割引ベネフィットを実現すると算出している。これらのベネフィットは、3年間の割引投資コストが平均401万ドルに匹敵し、これによって3年間のROIは194%となり、平均8か月で投資損益分岐点が発生することになる。

TABLE 6

3年間のROI分析

	企業当たり	100VM当たり
ベネフィット (割引後)	1,179万ドル	72万3,400ドル
投資額 (割引後)	401万ドル	24万6,100ドル
NPV (Net Present Value : 正味現在価値)	778万ドル	47万7,300ドル
ROI (Return on Investment : 投資利益率)	194%	194%
投資回収期間	8か月	8か月
割引率	12%	12%

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

課題と機会

当面の間、あらゆる企業にとっての最大の目標は、サイバーレジリエンスを確保しながら、オンデマンドでシームレスなデジタルエクスペリエンスを、従業員、顧客、パートナーに提供することであろう。データ主導型インテリジェンス、自動化、オペレーションがこのようなエクスペリエンスを促進する。

しかし、ビジネスリーダーにたずねたところ、ITの複雑性、技術的負債、スキル不足、時代遅れの（サイロ化した）アーキテクチャなどの問題があり、現在のビジネス成果の実現速度に満足していないと答えている。IDCの調査では、世界中のITリーダーの69%が、競争力の維持に必要なテクノロジーへの投資の増大について、非常に懸念していると回答している。ITリーダーは企業のレジリエンスについて慎重ながらも楽観的な見方を維持しているが、そのレジリエンスを維持するために必要なテクノロジーへの投資の負担が増え続けていることも認識している。

Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションは、ITインフラストラクチャ戦略向けにカスタマイズされた柔軟なオプションによって、これらの目標の多くに対応している。

顧客にとって重要な課題に引き続き焦点を合わせて、それらをAPEX製品／サービスに取り込むことが、デル・テクノロジーズにとって重要になるであろう。

持続可能性：

デルの献身的な持続可能性への取り組みは実に称賛に値するものである。環境意識が高い顧客は、あらゆる形態の報告を提供できる信頼できるベンダーとの提携を求めるが、デルにはその態勢が整っている。すべての事業地域における電力使用量から安全な資産の処分に至るまでの情報は、ユーザー企業にとって重要となる。デルにとって持続可能性は、製品設計から電子電気機器廃棄物の削減に至るまで、この分野への継続的な投資をアピールするための重要な必須事項となる。IDCの調査では、顧客はベンダー選定プロセスにおいてこれらの指標に注目しており、デルがこの重要な分野への投資を継続していることの重要性を強調している。

競争上の差別化：

多くのOME、クラウドプロバイダー、優れたパートナーは、消費量に関する選択肢を柔軟なものにし、企業のエコシステム内におけるあらゆる形態での消費を把握するモデルを開発している。デル・テクノロジーズは、Dell APEXポートフォリオを拡大するために、新たなパートナーシップ、製品／サービス、投資を継続的に開拓する必要がある。このような戦略的投資によって、デルは市場機会を生かすことができる。

結論

企業は、IT環境の簡素化、運用上のアジリティの向上、ビジネス成長の優先順位にIT予算と支出を整合させることなど、さまざまなDXへの取り組みで共通の目標を掲げている。しかし、これらの目標を達成するには、さまざまなクラウド環境やオンプレミス環境に渡り統合された、柔軟性が高いハイパフォーマンスのITインフラストラクチャ基盤が構築できるソリューションを見つけなければならないため、容易なことではない。パフォーマンス、コスト、拡張性という相反する要件を適切なバランスで調整するために、Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションのようなas a Serviceソリューションに注目する企業が増えている。

本IDCの調査では、デル・テクノロジーズの顧客が、デルのAPEXを活用して、ITコストと運用の目標、およびビジネスの目標の両方を達成した方法を明らかにしている。デルのAPEXソリューションは、インフラストラクチャの消費とコストを最適化できるだけでなく、ビジネス活動をサポートするために必要なITリソースの提供スピードを大幅に高められることが報告されている。このことは、直接的なコスト削減、スタッフの作業時間短縮、開発速度と生産性の向上、従業員の生産性と収益の向上など、インタビュー対象企業にとってさまざまな分野で価値をもたらしている。IDCは、これらのベネフィットがDell Technologies APEX従量課金制ソリューションへの投資コストを3倍近く上回り、その結果3年間の平均ROIは194%になると算出している。

補遺1：調査方法

IDCは、本プロジェクトにおいて標準的なビジネス価値／ROIの調査方法を利用した。この調査方法は、ハイパーコンバインド／コンピュータ、ストレージ、データ保護ソリューションを含むDell Technologies APEX従量課金制ソリューションを現在使用している企業から収集したデータを算出モデルの根拠としている。Dell Technologies APEXソリューションの使用に関する効果を理解するため、IDCはDell Technologies APEXソリューションの使用による効果についてビフォー／アフター分析を行い、インタビュー中に定量的なベネフィットに関する情報を収集した。本調査では、ITインフラストラクチャのコスト削減、スタッフの作業時間短縮や効率化、計画外停止に関連するリスク削減、収益増加などのビジネス上の利益などがベネフィットとして挙げられた。

IDCは次に示されるさまざまな前提を使用している。

- 効率化とマネージャーの生産性によるコスト削減を定量化するに当たり、時間の数値に会社負担の給与（給与に福利厚生および諸経費として28%を加算）を組み入れている。こうした分析を行うに当たり、調査参加企業の地域的な要因を加味した上で、IDCは、ITスタッフメンバーの会社負担を含む給与を平均で年間10万ドル、非ITスタッフメンバーの会社負担を含む給与を年間7万ドルと仮定した。また、従業員の年間労働時間は1,880時間（47週間×40時間）と仮定している。
- ITソリューションには導入期間が必要であるため、導入期間においてはすべてのベネフィットを得られるわけではない。こうした現状を反映させるため、IDCではベネフィットを月次ベースに比例配分し、初年度の節減額から導入期間に当たるベネフィットを減じている。

Note: 本調査レポートにおけるすべての数値は四捨五入による影響のために、完全に厳密ではない場合がある

補遺2：ベネフィットの数値化

Table 7（次ページ）は、IDCが算出した、Dell Technologies APEX従量課金制ソリューションの使用によって調査参加企業が3年間に年間ベースで達成した財務的価値の詳細を示している。

TABLE 7

年間の経済的ベネフィットの数値化

価値のカテゴリー	定量的ベネフィットの平均	15%の想定マージンを適用	算出した平均年間価値*
インフラストラクチャのコスト削減	コンピュータ (31%削減、年間29万8,700ドルに相当)、ストレージ (22%削減、年間16万3,900ドルに相当)、データ保護 (31%削減、年間6万8,100ドルに相当)	未適用	46万8,600ドル
電力のコスト削減	14%削減、年間4万3,200ドルに相当	未適用	3万8,200ドル
設備のコスト削減	10%削減、年間1万5,700ドルに相当	未適用	1万3,800ドル
ITインフラストラクチャのコンピュータチームの効率化	51%効率化 — 5.1 FTE、10万ドルの給与	未適用	45万2,800ドル
ITインフラストラクチャのストレージチームの効率化	46%効率化 — 2.4 FTE、10万ドルの給与	未適用	21万1,300ドル
データ保護チームの効率化	56%効率化 — 0.9 FTE、10万ドルの給与	未適用	8万2,800ドル
アプリケーション開発チームの生産性向上	16%生産性向上 — 11 FTE、10万ドルの給与	未適用	98万7,700ドル
計画外ダウンタイム — 生産性向上	91%短縮 — 17.3 FTE、7万ドルの給与	未適用	107万ドル
計画外ダウンタイム — 収益増加	67%短縮 — 330万ドルの収益増加	適用	43万6,600ドル
ビジネスの生産性 — 収益増加	921万ドルの収益増加	適用	122万ドル
Dell Technologies APEXの使用による年間総ベネフィット	498万ドル		

*1年目の4.8か月の導入期間を含む。

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

補遺3：補足データ

この補遺は、本書の複雑な数字のデータを利用しやすくしたものである。

表の下にある「元の数字に戻る」をクリックすると、元のデータの数字に戻ることができる。

FIGURE 2補足データ

企業当たりの年間平均ベネフィット

	ITスタッフの生産性のベネフィット	リスク低減とビジネスの生産性のベネフィット	ビジネスの生産性のベネフィット	ITインフラストラクチャのコスト削減
企業当たり	173万ドル	151万ドル	122万ドル	52万ドル
企業当たりの年間平均ベネフィット	498万ドル			

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

[元の数字に戻る](#)

FIGURE 3補足データ

インフラストラクチャの年間コスト

	サーバー／ハイパーコンバージド (31%削減)	ストレージ (22%削減)	データ保護 (31%削減)
Dell Technologies APEXの導入前／導入なし	97万200ドル	75万4,600ドル	21万8,100ドル
Dell Technologies APEX導入後	67万1,500ドル	59万600ドル	15万ドル

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

[元の数字に戻る](#)

補遺3：補足データ（続き）

FIGURE 4補足データ

ITイノベーションへの影響

	仕事の維持	イノベーション
Dell Technologies APEXの導入前／導入なし	65%	35%
Dell Technologies APEX導入後	32%	68%

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

[元の数字に戻る](#)

FIGURE 5補足データ

企業当たりの3年間の運用コスト

	ITインフラストラクチャのコスト	ITインフラストラクチャのスタッフの作業時間のコスト
Dell Technologies APEXの導入前／導入なし	636万1,000ドル	451万6,900ドル
Dell Technologies APEX導入後	479万9,300ドル	227万6,300ドル

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

[元の数字に戻る](#)

FIGURE 6補足データ

ITアジリティへの影響

	新しいサーバー／ハイパーコンバージドを導入するまでの時間（時間数）	新しいストレージ容量を導入するまでの時間（時間数）	新しいデータ保護容量を導入するまでの時間（時間数）
Dell Technologies APEXの導入前／導入なし	8.5	12.3	10.2
Dell Technologies APEX導入後	3.4	4.0	1.4

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

[元の数字に戻る](#)

補遺3: 補足データ (続き)

FIGURE 7 補足データ

開発チームの生産性への影響

	生産性の基準値	生産性の向上
Dell Technologies APEX導入前／導入なしの開発チームの生産性レベル	69	n/a
Dell Technologies APEX導入による生産性の向上	69	11
Dell Technologies APEX導入による開発チームの生産性レベル	80	n/a

n = 8; Source: IDC Business Value In-Depth Interviews, August 2023

[元の数字に戻る](#)

IDCアナリストについて



Susan G. Middleton

Research Vice President, Flexible Consumption and Financing Strategies
for IT Infrastructure, IDC

Susanは、IT機器、ソフトウェア、サービスの金融市場に関するIDCの世界的な調査を指揮している。IDCのFlexible Consumption and Financing Strategies for IT Infrastructure調査の調査担当バイスプレジデントとして、供給側と需要側の両方の視点から分析とインサイトを提供している。主な調査対象として、購入、リース、融資から、利用に柔軟性があるものとしても知られる新しいas a Serviceモデルへの調達モデルの進化が挙げられる。Susanの調査は、調達戦略とIT機器のライフサイクルに関する分析と専門知識に基づいている。それらの調査は、新しい柔軟な消費モデルの促進要因や、長期的なIT機器の価値と予測への影響、および従量課金サービスに対する新しい購買行動の傾向をベンダーとバイヤーが理解するのに役立つ。

[Susan G. Middletonの詳細](#)



Matthew Marden

Research Vice President, Business Value Strategy Practice, IDC

Matthewは、さまざまなテクノロジー分野の顧客に対して、カスタムビジネス価値リサーチエンゲージメントやコンサルティングプロジェクトの調査を担当し、エンタープライズテクノロジーの使用によるROI (Return on Investment) の推定などに従事している。Matthewの調査では、多くの場合、企業がいかにしてデジタル技術のソリューションや取り組みへの投資を活用し、効率化やビジネスイネーブルメントを通じて価値を創出しているかが分析されている。

[Matthew Mardenの詳細](#)

IDC Custom Solutions

本調査レポートはIDC Custom Solutionsが発行したものです。本調査レポートに記載する見解、分析、調査結果は、ベンダースポンサーの記載がない限り、IDCが独自に行い、発行した詳細な調査と分析から導き出されたものです。IDC Custom Solutionsは、さまざまな企業による配布に対応するため幅広いフォーマットでIDCのコンテンツを提供しています。このIDCの資料は、外部使用を目的としてライセンスされたものであり、IDCの調査結果の使用または公表は、スポンサーまたはライセンシーの製品または戦略に対するIDCの支持を示すものではありません。



IDC Research, Inc.
140 Kendrick Street, Building B, Needham, MA 02494, USA
T +1 508 872 8200

 @idc

 @idc

 idc.com

International Data Corporation (IDC) は、ITおよび通信分野、消費者向けテクノロジー市場に関する調査・分析、アドバイザリーサービス、イベントを提供するグローバル企業です。世界中に1,300人以上のアナリストを擁するIDCは、110か国以上を対象として、世界規模、地域別、国別での市場動向の調査・分析および市場予測を行っています。IDCの分析と洞察は、IT専門家、企業経営者、および機関投資家が客観的にテクノロジー導入の意思決定を行い、主要な事業目標を達成するのに役立ちます。

©2023 IDC. Reproduction is forbidden unless authorized. All rights reserved. [CCPA](#)